

執 筆 者 一 覧

(アイウエオ順。役職等は2014年4月1日現在)

- ✚ 大金 文雄 石ヶ入りの自然を愛する会 代表
- ✚ 大久保忠旦 宇都宮共和大学 シティライフ学部 名誉教授
- ✚ 小川二三雄 街に賑わいを興す会 代表
- ✚ 小口 格男 特定非営利活動法人 那珂川流域悠遊会 理事長
- ✚ 鶴見三代子 特定非営利活動法人 てとてとて 理事長
- ✚ 内藤 英二 宇都宮共和大学 シティライフ学部 教授
- ✚ 中田 健吾 国際医療福祉大学 医療福祉学部 医療福祉・マネジメント学科 准教授
(海老原 諭 国際医療福祉大学 講師)
- ✚ 萩原 宣子 那須烏山市まちづくり研究会ワークショップグループ 代表
- ✚ 福島 二郎 足利工業大学 工学部 創生工学科 建築・社会基盤学系
空間デザインコース 准教授
- ✚ 藤井 啓太 栃木県立烏山高等学校 教諭
- ✚ 矢口 和美 特定非営利活動法人 野うさぎくらぶ 理事長
- ✚ 山田 徳彦 白鷗大学 経営学部 経営学科 准教授

編集後記

『那須烏山市まちづくり研究会』は、新市として誕生した那須烏山市のまちづくり支援を目的として創設された。一つの自治体に複数の高等教育機関、それも多岐にわたる専門分野が結集するこの研究会は、産学官連携が各地で推し進められている中で、栃木県内はおろか全国的にも真新しい形態の研究会としての発足であった。

このように、地方都市を舞台に異分野連携としてスタートした研究会ではあったが、残念ながら当初の目論見からするとその連携の効果が現れているとは言えない。市民グループや分野が異なる大学間によるコラボレーションなどいくつかの取り組みが企画され実施されてはいるが、現段階では目に見える成果は得られておらず、その連携の意義は希薄である。これまでの活動をとおして培ってきた経緯を踏まえ、異分野の“集合体”から“共同体”としての新たな成果の発揚に向けた取り組みのさらなる試行が必要であると考えている。

報告書では、研究会の起ち上げから各大学の研究の狙いと成果、さらに地元高等学校のスタンスや市民グループの活動まで、その詳細が述べられている。これらの取り組みからは、狙いとす目標や対象は異なるものの、那須烏山市を生活の場・コミュニティーの場として捉え、その時空間をより快適に、より良くするためのアプローチであることが伝わってくる。分野やアプローチ手法は違えども、最終目標・到達点は、とりも直さず市民が感受できる豊かさであり、さらに未来に向けたその継承である。

この報告書は、『那須烏山市まちづくり研究会』の9年間におよぶ研究および活動成果の報告である。9年間におけるこれらの研究や活動は極々小さな取り組みから始まったものであるが、着実に小さな芽が擡げ始めていると感じている。ぐらつかない心（恒心）で、当たり前のことを当たり前にこなす（凡事徹底）その積み重ねが、現在を支えている。ものごとの本質は祖型にこそよく現れるという。湧き上がり温めた小さな思いを時に振り返りながら、地域を思い、まちの未来を一人一人が考える。本報告書がその契機になることを期待したい。 (福島 二郎)

『那須烏山市まちづくり研究会』活動成果報告書

発 行 2016年2月

発行者 那須烏山市まちづくり研究会
〒321-0692 栃木県那須烏山市中央1丁目1番1号
那須烏山市商工観光課内
TEL 0287-83-1115 FAX 0287-83-1142

印刷所 株式会社アド・ワークス
〒321-0621 栃木県那須烏山市中央1丁目11番17号